

2011年9月29日

## 「デモと広場の自由」のための共同声明

起草者：柄谷行人、鶴飼哲、小熊英二

3・11 原発事故において、東京電力、経産省、政府は、被害の実情を隠し過小に扱い、近い将来において多数の死者をもたらす恐れのある事態を招きました。これが犯罪的な行為であることは明らかです。さらに、これは日本の憲法に反するものです。《すべて国民 (people) は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する》(25 条)。しかし、東京電力、経産省、政府はこの事態に対して責任をとるべきなのに、すでに片づいたかのようにふるまっています。

それに抗議し原発の全面的廃炉を要求する声が、国民の中からわき起こっています。そして、その意思がデモとして表現されるのは当然です。デモは「集会と表現の自由」を掲げた憲法 21 条において保証された民主主義の基本的権利です。そして、全国各地にデモが澎湃 (ほうはい) と起こってきたことは、日本の社会の混乱ではなく、成熟度を示すものです。海外のメディアもその点に注目しています。

しかし、実際には、デモは警察によってたえず妨害されています。9月11日に東京・新宿で行われた「9・11 原発やめろデモ!!!!」では、12人の参加者が逮捕されました。YouTube の動画を見れば明らかなように、これは何の根拠もない強引な逮捕です。これまで若者の間に反原発デモを盛り上げてきたグループを狙い打ちすることで、反原発デモ全般を抑え込もうとする意図が透けて見えます。

私たちはこのような不法に抗議し、民衆の意思表示の手段であるデモの権利を擁護します。日本のマスメディアが反原発デモや不当逮捕をきちんと報道しないのは、反原発の意思が存在する事実を消去するのに手を貸すこととなります。私たちはマスメディアの報道姿勢に反省を求めます。

---

## 「デモと広場の自由」 共同声明記者会見にて

共同声明記者会見

【日時】2011年9月29日(木)15~16時

【場所】日本外国特派員協会

【スピーカー】柄谷行人、雨宮処凛、鶴飼哲、小熊英二ほか

### 柄谷行人

9/11の「反原発デモ」で、12名の参加者が逮捕されました。私はその時、現場にはいませんでしたが、その日の夕刻、新宿アルタ前の集会でスピーチをしました。その縁で、このような共同声明を出すことを依頼され、また、声明文を起草するように依頼されました。私は、起草はしましたが、最初から、皆さんの同意が得られるように客観的に書きました。また、皆さんに読んでいただいて、文面を検討しました。そうして、できあがったのが、配布した声明文です。今、それをくりかえす必要はあるまい、と思います。事実経過に関しても、他の方が話して下さいと思います。

声明文では、憲法を引用したり、法律的な言葉を並べています。それは、これまで私がしたことのない言い方です。私自身がいいたいのは、それとは少し違います。私がいいたいことは、アルタ前のスピーチで話したことと同じです。つまり、日本にはデモが必要だ、デモが日本の社会を変える、ということです。それはYouTubeに載っていますから、興味があれば見て下さい。今日ここで、私はあらためて、デモの重要性について話したいと思います。

私は原発震災が起こってから、デモに参加したのですが、それ以前から、デモが重要だと考えてきました。脱原発はいうまでもなく、重要である。しかし、それとは別に、私はデモが重要だと考えていました。そして、日本になぜデモがないのか、と考えていました。もともとデモがなかったわけではないのです。私が学生のころ、それは1960年ごろですが、デモはありふれたものでした。しかし、80年代以後、デモがなくなってきました。そして、デモがないこと、あるいはデモが少なくなったことと、こんな地震の多い国に原発が54基も建てられたこととは、関係があります。つまり、それは原発に反対する意思表示ができなくなってきたということです。日本はそのような社会になってきたのです。

地震があったあと、外国のメディアは、日本人の冷静なふるまいを賞賛しました。しかし、同時に、それは不可解でもあったはずで、日本人はなぜ異様におとなしいのか、なぜ抗議しないのか、なぜ怒らないのか。しかし、昔からこのようであったわけではありません。そのような日本人の態度はおそらく、ここ20年ぐらいの間に形成されたものです。

実は、1980年代前半には反原発の運動が盛んで、デモもありました。それまで日本人は、広島・長崎の経験から、核に関して敏感であったからです。しかし、次第に、いつのまにか、そのようなプロテストがなくなった。同じ時期に、労働運動などが弱体化され、また、社会党が消滅してしまっただけでなく、90年代には新自由主義、つまり、資本の専制体制が確立された。そのことと、原発が大量に作られるようになったことは、深く関連しています。

しかし、3・11 原発震災のあとで、デモがはじまりました。私は、たんに原発に反対するだけでなく、個々人がその意志を、デモを通して表現することが重要だと思います。その意味で、ようやく、日本人が意思表示を始めたのだ、と思うのです。私はデモがはじまったことに希望を見いだしています。そのきっかけを作ったのは、「素人の乱」のような若い人たちです。彼らは新しいデモの形式を創りだした。だから、私は彼らに感謝しています。したがって、それを抑圧するものに対して、抗議したい。それで、私は、このような声明を出すことに賛成し、協力を惜しまないと伝えたのです。

最後に、記者の皆さんにお願いがあります。現在、日本の各地に反原発のデモがあるという事実をもっと報道していただきたい。デモの存在を無視することは、弾圧するのと同様に、デモを抑圧することになるのです。

2011年9月11日

**SPEECH** 9.11 新宿・原発やめろデモ!!!! 新宿アルタ前にて  
**「反原発デモが日本を変える / デモで社会が変わる」 柄谷行人**

私は4月から反原発のデモに参加しています。この新宿駅前の集会にも、6・11のデモで来ています。

私はデモに行くようになってから、デモに関していろいろ質問を受けるようになりました。それらはほとんど否定的な疑問です。たとえば、「デモをして社会を変えられるのか」というような質問です。それに対して、私はこのように答えます。デモをすることによって社会を変えることは、確実にできる。なぜなら、デモをすることによって、日本の社会は、人がデモをする社会に変わるからです。

考えてみてください。今年の3月まで、日本には沖縄をのぞいて、ほとんどデモがなかった。それが現在、日本中でデモが行なわれるようになってきています。その意味で、日本の社会は、少しは変わったわけです。たとえば、福島原発事故のようなことがドイツやイタリアで起こればどうなるか、あるいは、韓国で起こればどうなるか。巨大なデモが国中に起こるでしょう。それに比べれば、日本のデモは異様なほど小さい。しかし、それでも、デモが起こったということは救いです。

デモは主権者である国民にとっての権利です。デモができないなら、国民は主権者ではない、といってもいい。たとえば、韓国では 20 年前までデモができなかった。軍事政権があったからです。しかし、それを倒して、国民主権を実現した。デモで倒したのです。そのような人たちがデモを手放すはずがありません。

では、なぜ日本にはデモが少ないのか。なぜ、それが変なことだと思われているのか。それは、国民主権を、自分の力で、闘争によって獲得したのではないからです。日本人は戦後、国民主権を得ました。しかし、それは敗戦によるものであり、事実上、占領軍によるものです。自分で得たのではなく、他人に与えられたものです。では、これを自分自身のものにするためにどうすればよいのか。デモをすること、です。

私が受けるもうひとつの質問は、デモ以外にも手段があるのではないか、というものです。確かに、デモ以外にも手段があります。そもそも選挙がある。その他、さまざまな手段がある。しかし、デモが根本的です。デモがあるかぎり、その他の方法も有効である。デモがなければ、それらは機能しません。今までと同じことになる。

さらに、私は、このままデモは下火になっていくのではないか、という質問を受けます。戦後日本には全国的規模のデモが幾度かありました。しかし、それは短期間しか続かず、敗北に終わった。今回のデモもそうなるのではないか、というのです。

確かにその恐れはあります。マスメディアでは、すでに福島事故は片づいた、ただちに経済復興に取り組むべきだ、という意見が強まっています。むろん、そんなことはない。福島では、何も片づいていない。しかし、当局やメディアは、片づいたかのようにいっている。最初からそうでした。彼らは最初から、事実を隠し、たいしたことがなかったかのように装ったのです。ある意味で、それは成功しています。多くの人たちがそれを信じている。そう信じたいからです。としたら、今後、反原発のデモが下火になっていくことは避けられない。と、いうふうに見えます。

しかし、違います。福島原発事故は、片づいていない。今後もすぐには片づかない、むしろ、今後、被曝者の病状がはっきりと出てきます。また、福島の住民は永遠に郷里を離れることになるでしょう。つまり、われわれが忘れようとしても、また実際に忘れても、原発のほうに執拗に残る。それがいつまでも続きます。原発が恐ろしいのはそのことです。それでも、人々はおとなしく政府や企業のいうことを聞いているでしょうか。もしそうであれば、日本人は物理的に終わり、です。

だから、私はこう信じています。第一に、反原発運動は長く続くということ、です。第二に、それは原発にとどまらず、日本の社会を根本的に変える力となるだろう、ということです。

皆さん、ねばり強く戦いを続けましょう。

.....  
情報源

『脱原発とデモ　そして、民主主義』 筑摩書房 2012.10.11

memo

69 頁 **ESSAY** デモは手段ではない 柄谷行人

「デモをたんに手段としてのみならず、同時に目的として見るべきである。」